

破損あり

以下 汚れあり



美良能平醇
 小田乃知也
 如河之日
 五日野
 麻與邊比
 口多比之由也

強首邑
 金山冷邑
 高城邑
 九井田邑
 大卷邑
 寺館邑

美良能寺祭

○強首邑

十和田郡
野宮郷

戦團法人
蒙盛教育
圖書本

強首邑

詳波 久備

星正

佐木卯兵衛
小山田文五郎

強首の野和野驛より重成京方の中より常吉川邑より
一里より南方の在りし飲食河の峯に流しゆく多村地強首の郷の
可名也副強頭なる義ありゆりし郷民の血の廣長は此地を
強巻と云ひ地は今も川向ふを逆巻石巻なりしもありしを
無巻と云ひ水の出事を云ひ地淵の山浪高く云ひはるはれ安けし舟
性来りしは流用と云詞を名ふりしは並て地ありし物語に困り
或はあゆみしを流用と云詞を名ふりしは並て地ありし物語に困り
強假字先正字困りしは強巻逆巻石巻なりし同名と云ふ
在りしは河瀬小橋ける名なりし中逸邦の後より地強巻を改め強首
と云りぬし新築し給ふくゆる其橋徳の築物と云熟田と云今も此

四代吉清吉高男七藏之後太吾弟後太郎右衛門云云五代
 吉國吉清男始七藏後大吾弟云云 六代善興吉國之子 七代
 善連善興修之八代善光善興之智九代善氏善光
 一男云 十代善治善氏長男云 十一代善長修之木之吾弟
 十二代當代修之木之吾弟善長善長修之

伊藤社

伊藤伯春正長系譜

上祖伊藤出雲守藤石正時正時之少孫吉清也前津邑不在也白鳥若
 文福法師曰此縣卷村手まゝ云 二代志麻守正榮上之文福云云
 三代伊勢守繁政元伯春之祖云 四代出雲守正盛而見承云
 五代伯春守政孝當文也 六代筑後守正室元福云云

七代攝津寺正信享保頃 八代伯春守正長實徳のころ
 九代筑後正政廣安承のころ 十代攝津正正實天明のころ
 十一代當時伯春正正榮其男主水正庸と云

大福寺修験

熊野山大福寺開山照光二世宥光 三世宥玄 四世照考 五世
 周時 六世宥學 七世周光 現任

小山寺修験

曰生宮山小山寺開祖正實見宥光官見永年中示寂當世
 十世と古來いふの傳をあれど白縁より古系諸尊と云々云々
 今存しなくともいふは傳入より曰生宮の山と云々云々
 世皇宮寺考子毛鹿郡八澤木鄉保呂羽山下居宮祠官連氏

家系譜云九代茂久吉茂孫子右近正吉茂二男遠藤即太夫
 茂俊子之康和元年卯年當山宮傳（山宮傳）吉賀鈴木羽多吉野宇垣
 保大遠藤久石平瀬依木地十全佐間當麻板基田上溝山
 羽貫小友日生宮是八人子四津加勢七子遠藤大友依北下知
 山中騷動依之清將軍和談之鎮大治四年己酉五月廿行幸十四
 光之冬也此仙北郡鏡見内板柳子日生宮村あり同郡横塚村之柳
 星宮村あり二村より小山寺の祖や出つし小山寺の地歴村
 里正小山田氏に於る也此仙北郡地小山田村あり小山田氏の祖も其村に
 創めりなり此觀世音の事新抄にあり山田氏に記しあり日生宮山本尊
 石部明王圓仁大師作也 ○大般若經所載の十六善神所寄處
 是山知高之画也正保年中六針佛傳田あり（地歴村と山田村の地歴田あり）地土百

觀世音（観世音）忍坂（忍坂）と云山路り此地より後まつるは正保
 上祖より十四世中興より九世日生宮小山寺現任（現任）あり

古柵跡

此柵地強首村より、即ち梅川のゆかり不存なり、白岩街道あり
 大陣場小陣場と云ふ所あり、軍の衛り也、近きより大陣場を
 梅刀橋と云ふなり、ゆかりあり、此古柵と白岩寺を在り、其跡あり、
 今、此地在り、白岩寺より、木度軍記あり、此寺あり

荊山

○荊山、嶺崎と云ふ古通に今、荊絶く、此地を、一と云ふ
 あり、この山あり、昔、山あり、今、山あり、此山あり、
 （この山を、屋張の熱田の宮地と云ふ、道、此山あり、此山あり、

絶て達助一是と云ふは之は福と云ふも分ち解れ之は福と云ふ也
きつりやうと云ふ

○乙越村具要 枝郷

地村、主保、乃、ま、ま、子、孫、未、越、越、越、母、村、強、首、より、東、南、小、當、
小、郷、より、七、戸、あり、大、沼、あり、十、七、町、あり、是、より、西、に、
多、岐、の、早、の、郡、邑、記、に、家、二、軒、と、見、え、る、

○伊藤重左衛門家系譜

○上祖、藤原祐澄、但馬國住人、藤太夫、之、伊藤河津守、俊美、
子、所、で、知行、依、苗、美、入、道、宍、心、云、云、祐、重、祐、重、者、祐、重、
備、前、河、津、三、郎、と、云、一、女、是、二、宮、姊、内、前、と、云、二、男、祐、成、曾、我、
十、郎、と、云、三、男、時、宗、曾、我、五、郎、と、云、四、男、禪、師、坊、伊、藤、禪、師、坊、
數、後、國、國、上、者、任、之、子、榮、越、○八、幡、宮、別、當、伊、藤、萬、福、寺、
世、以、後、俗、家、成、代、相、續、○中、興、祖、伊、藤、祐、道、伊、藤、清、吉、者、万、福、寺、

末云元和二年申九月吉日。二代祐國伊藤清三郎後藤右馬守
 ○三代祐忠嫡子清三郎。四代祐定三男德右馬守室大場
 崎村三宮門妹。五代祐信嫡田方十五衛門母三右馬守室隆首
 邑期介娘。六代祐保嫡男半四郎室隆首村作木太兵衛
 善興娘。七代輔遠嫡子伊藤重右馬守室善田領江富
 邑佐木藤左馬守。八代祐清養子實者高城邑信田惣
 右門三男。和名源四郎。後。右左門祐清成室祐遠。意
 ○九代祐安嫡子伊藤重右馬守高城村信田惣右門二女。依
 ○十代祐吉當時。白藤祐安嫡子。重右門。室隆首村。依
 依木卯兵衛七女。云々云々云々

○八幡宮 祭日五月十五日 廣主伊藤右左門

他山神々伊藤氏四代當禪師坊。後。國上寺。守護
 奉事。八幡の山正社。以てあり。云々云々。宮造り。高城
 子。享保十五年庚戌三月十五日再興成。其のり大願。云々
 強菴村野。云々木多兵衛善興。櫻孔。云々。村。云々。室
 澤田村の。云々大胡柳。云々。高城。云々。鎮。云々
 ○雷社 祭日 月 日 齋主 強首村 依 木卯兵衛
 本社と共々 向南方より上祖より 齋主 雷社 下 加賀 茂 氏
 神社 其の 齋主 即ち 銘明 天皇 時 初祭 此 上下 神 下 加賀 善 王 依 姫
 也 加賀 茂 建 命 身 命 之 女 也 其 子 為 雷 神 号 別 雷 命 故 号 下
 加賀 茂 為 御 祖 号 別 雷 命 上 賀 或 日 本 紀 伊 弉 諾 新 神 是 矣 和 日
 為 三 段 其 一 為 雷 神 云 々 云 々 云 々 齋 主 茂 氏 云 々 云 々 拾 芥 物

○大平雲來。大坂より入山すの神のたまはるまはる。内沼のきよき
 中より下瀬に流れ世大平は水と大場崎の石名坂の妙美井井井二は兼て
 ○子越津田。とらん田あり世子越津田。子越津田の字地を記し
 じをあらそふ。案の字を有き記し。さきとあらまう。い。まのこ。世子越津田
 新羅寺と人此白前あり。古鏡をとも持り。あうそのむくをこらめ
 人の住つる事をよれと。村名のひらき

○田島。おとら
 ○津田。ニツ徳。うら平。せいのり。ねら

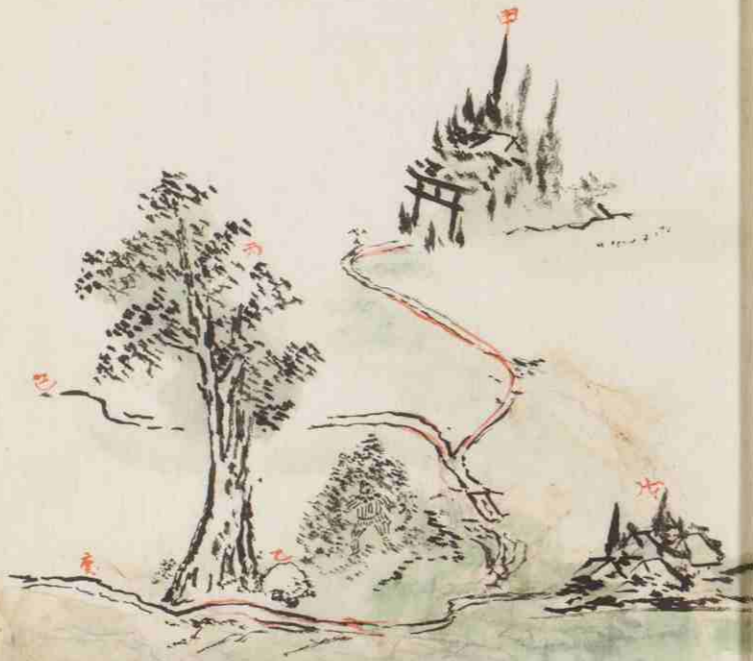
○大場崎を強首村の南に存するのり。を一村なり。今を強首の支郷と
 嘉保日記。小谷貝拾軒。うら。今も十三。あり。村の始を菊治元年のこ

草創し。之。和野色。弥助とよとの。其。茶。の。川。和野色。小。平。寺。あり
 武藤弥助とよとの。武藤家とよ。法。女。守。門。七。面。神。と。齋。く
 ○七面神社。天。示。日。七。月。十九。日。武藤弥助。齋。主。武藤。三。古。王。門。こ
 一村の鎮守の神といふ。と。と。と。と。

○長養寺

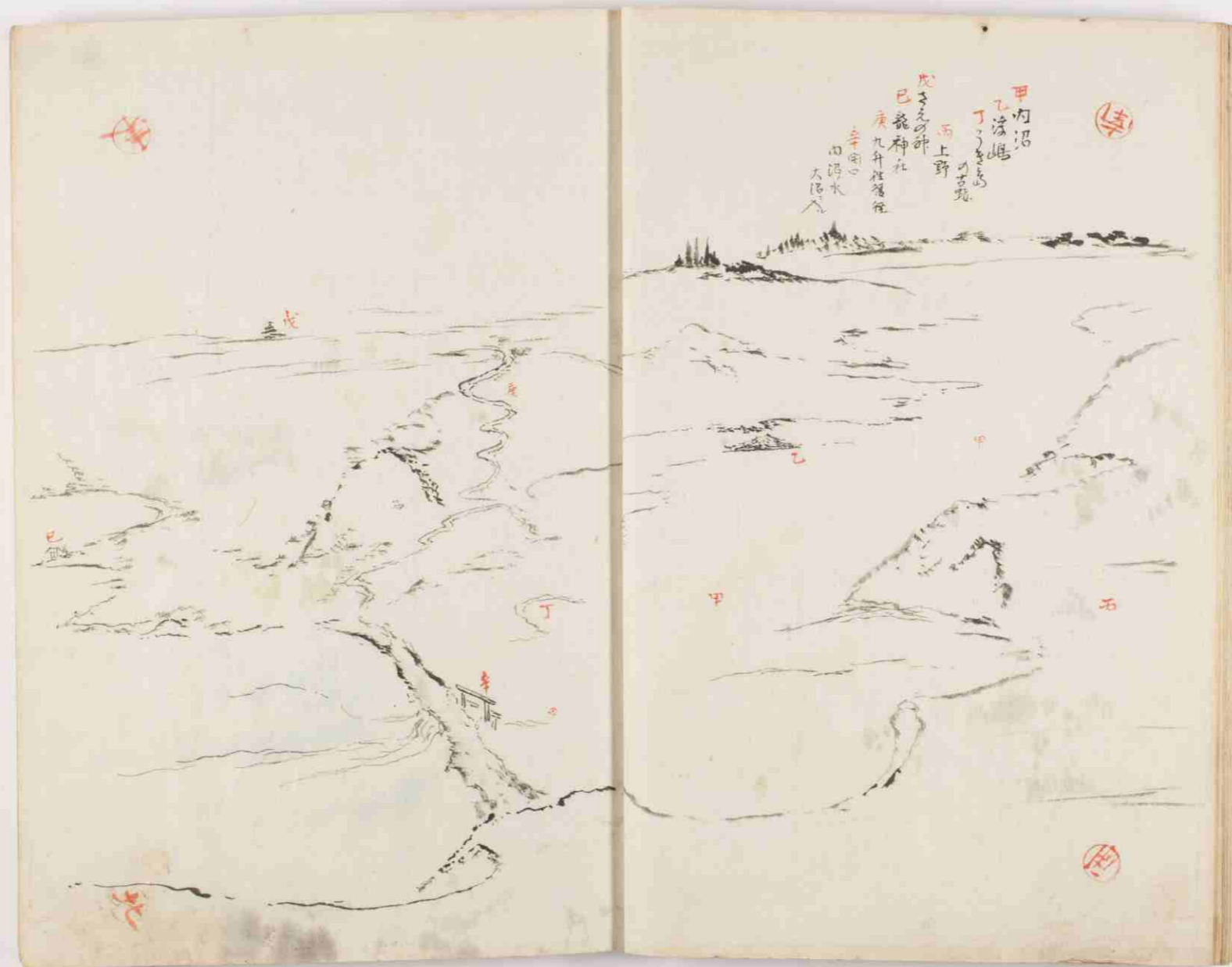
○萬松山長養寺。下野國。栃本。大圓山。總德禪寺。末。山。あり
 世。万。松。山。開。闢。を。明。應。四。年。元。上。強。養。寺。在。り。元。禄。十。年。丁。丑。十。月
 十三。日。白。禪。の。芳。山。あり。今。の。中。嶋。と。い。は。し。引。移。り。地。寺。や。ま。り
 強。首。村。を。跡。あり。長。養。寺。開。祖。を。根。本。總。德。寺。三。世。大。通。宗。闡
 禪。師。に。永。禄。十。年。戊。辰。三。月。廿。六。日。示。寂。を。創。め。平。僧。住。て。後。法。地。と
 ぬ。り。又。勅。請。の。禪。師。也。明。應。四。年。より。永。禄。十。年。の。遷。化。あり。と。く。寺。數

甲八幡宮
 乙園塚
 丙櫻井木地
 丁秋邑
 陸首街通
 庚松三長寺通

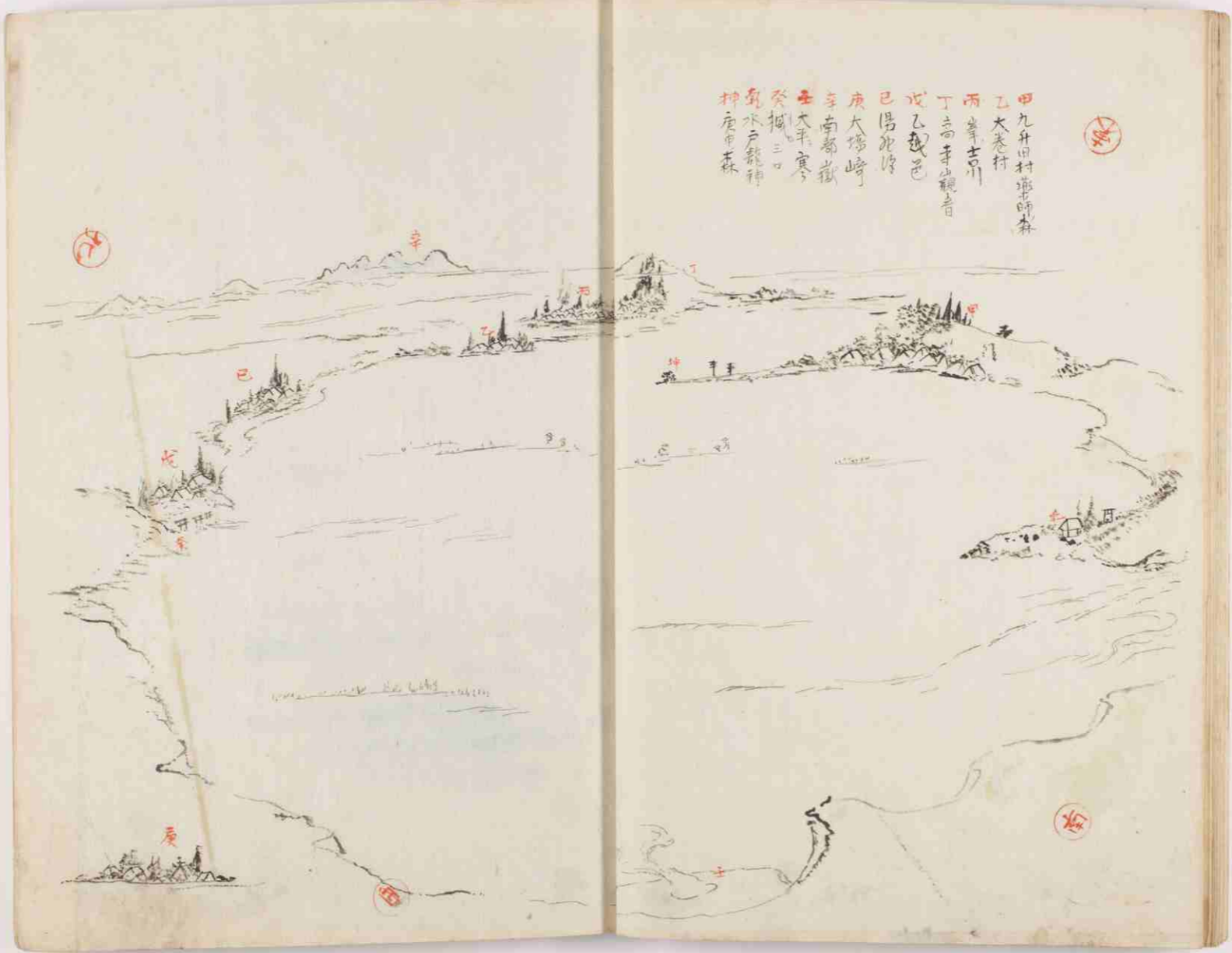


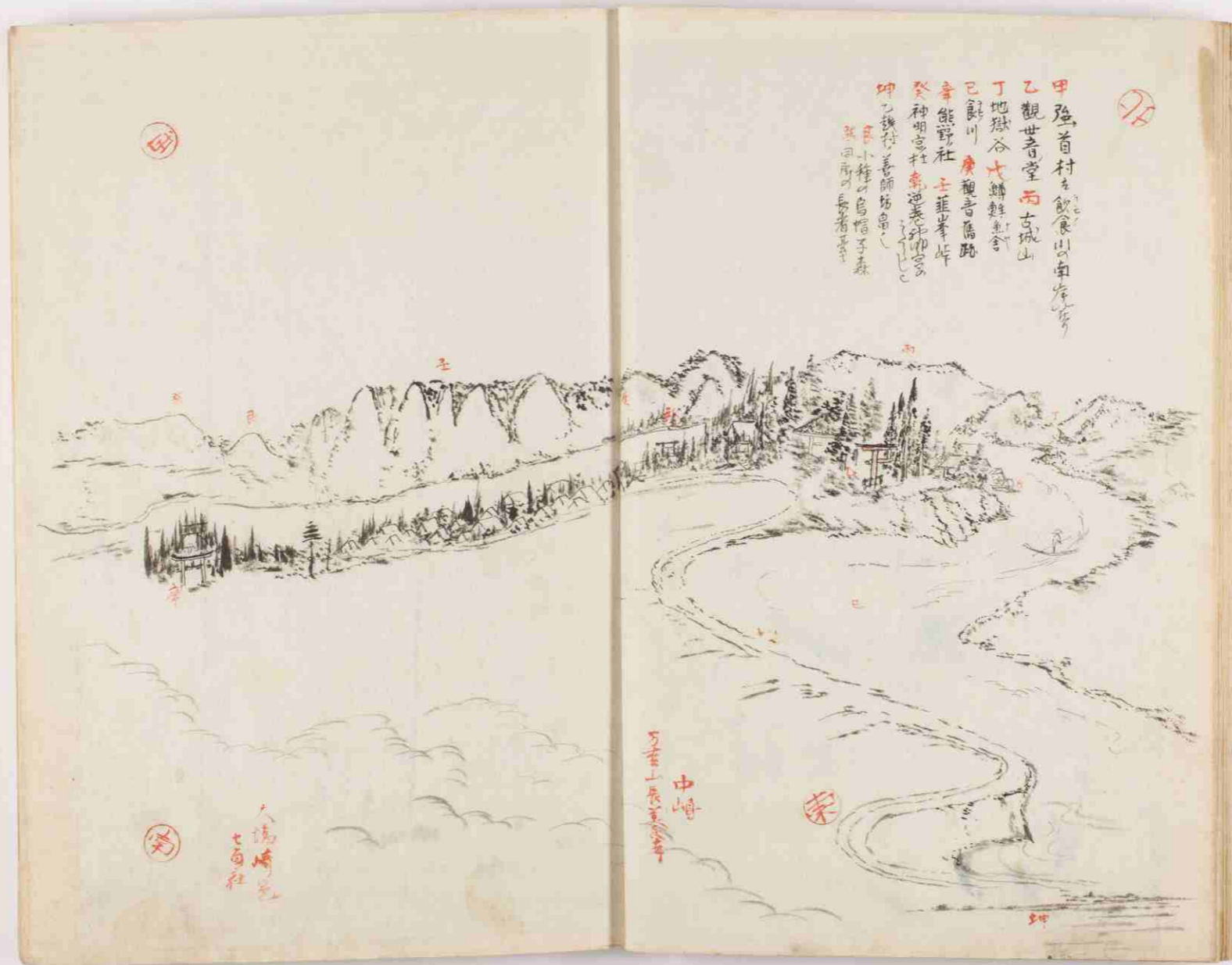
斗如く當時十七世現住獨南和尚之長壽寺本真正觀世音
 立像一軀願主窪田六町目川端鈴在兵衛内長六寄進長壽寺
 宣長和尚代正徳元年辛卯六月十八日記前立定奉地藏菩薩
 早沙門天主元禄三年土月閑暇とありて世三觀音石菩薩也
 ○不動明王堂萬松山鎮守之寺二つに言ひ傳へし所の明王の
 あらざるをいふるあり傳ふの御しと云ふ

○武蔵野の五所宣長二のり甲子○南正信友三在伊豆伊豆の世
 武蔵野の南正信友と云ふまじしものありて宣長十三方あり七書も三十三戸
 ありまじしものありて宣長十三方あり七書も三十三戸
 停しと云ふの御しと云ふ



甲 九升田村 遊師森
 乙 大卷村
 丙 岸吉川
 丁 高平山 觀音
 戊 乙越邑
 己 湯比津
 庚 大塚崎
 辛 南都嶺
 壬 大平 寒
 癸 堀三
 卯 水戸龍神
 神 唐市森





甲 強首村 飲食山南岸
 乙 觀世音堂 古城山
 丁 地獄谷 六轉經會
 己 龍川 廣觀音橋跡
 辛 龍野社 壬 龍峯岨
 癸 神明宮社 癸 龍峯岨
 卯 乙 龍野社 善師坊
 辰 小幡山 烏帽子森
 巳 同所 長谷有寺

中嶋
 万在 山 辰 壬 辛 年

八 湯 野 尾
 七百 社

小田のおもむきの巻

○金山津邑

川和野寄脚川向五十村
二十村内



金山澤邑加泥夜

里正長四郎本夜

○刈野野一里中、南在り。強首金山澤九升田大巻。高城。
是刈和野宗親河向野五箇村より。此平地より其まれば野出
幸ありとむ。其名をわたりし。分給きとす。ありし。

○八幡宮 祭日八月十五日 産主さ木仁在里門

○田白岡下地

○高田 ○水二場柳野 ○嶋田 ○沖堰 ○みこころち
○三階堤 三階池之魚田築田 三百刈夫を以て并序 仁親の
水田より多包 持物さる人あり。是を築する。大地に

○鶴子家員 拾戸 司人數六拾人 馬數十六疋

切福阿田

〇

高城邑
目差

高城邑

多加首 長字

聖正惣右衛門

氏信田

○高城村を野和野跡と川踏え十八町斗西に在りて其地多
く長信田氏を由と云ふは信長入主四五代も帯刀して在りたり

○大日如來堂前イハヒ稻荷神 南に 總古王門

村より西のとあるに古く時ありて奈河

○古城跡あり古本より後りぬ地より平親王將門親戚に承承
世を他ひてその其家頼りて馬の須田帯美平のしに人より
今も連綿としてありてその地より其家と講堂
と長く存するにぬをたてた事ありといふ

○白山比咩社 須田氏の家の西に在りて其地鎮守といふ

あるに其地をいふにその地より其家と講堂

○九井田邑 新築 里正武左衛門 保備

○九井田を刈和野驛より一里川踰て西南の丘に在り九井田むくも
久井田を作しと云ふも新築田作りし也九井田の如く稱しりたる
もその玉の由と云ふもさうゆ

○薬師如来堂 祭日四月八日 祭主 熊鷹分
九井田三井陸陸祭主

○神明宮 祭日 盛風至 瀬兵衛

名跡

○五日池木林 イッパツキ 今誤りて五坂木林と云ふをり一軍の跡と云ふは誤り
小池等のと云ふは五日の陣取跡と云ふは五日木林と云ふは五日横手川と云ふは
今を五日池と云ふは五日の跡と云ふは五日の跡と云ふは

○十二橋 木十二本より井堰横掛り十二橋と云ふ

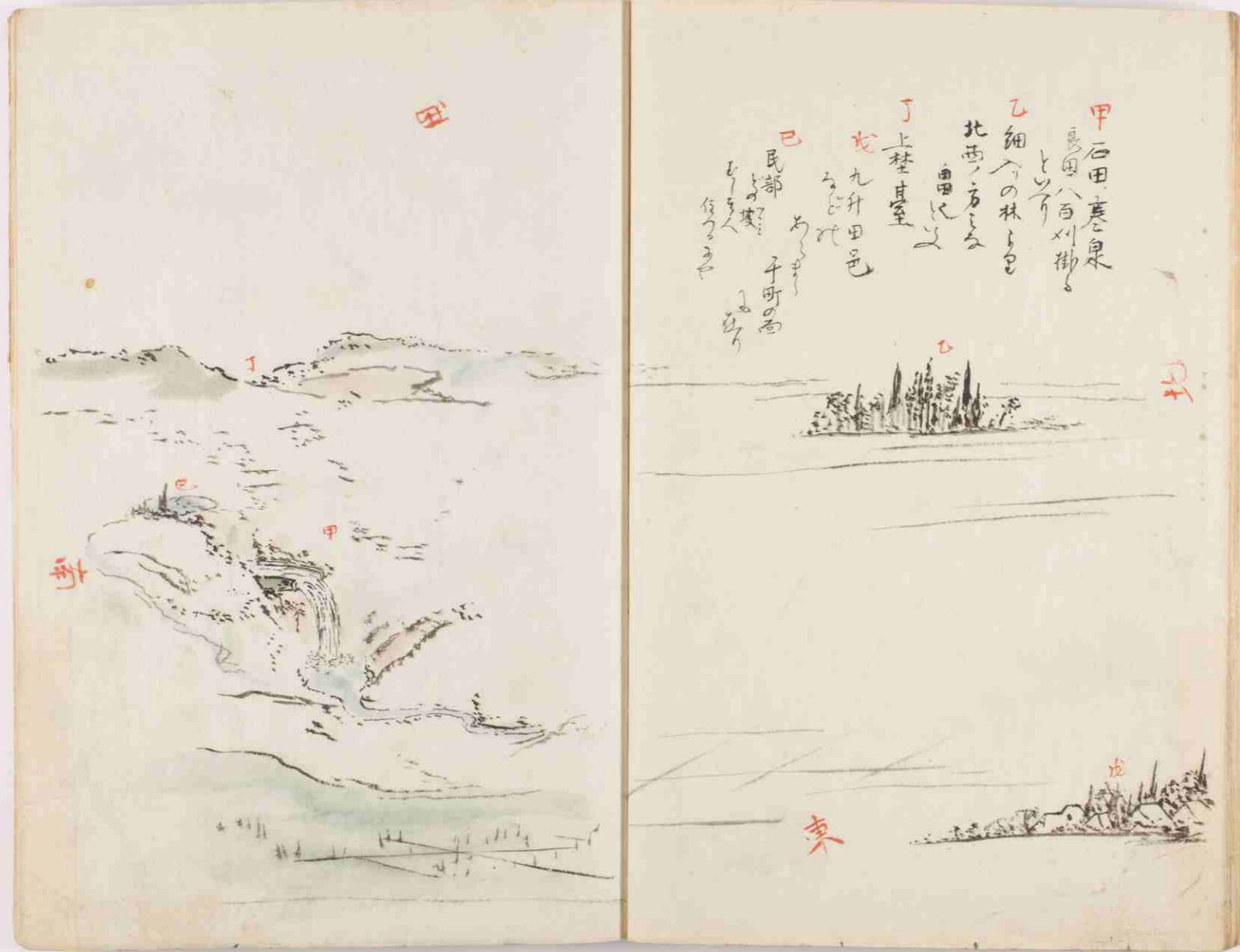
○寺鐘色々十二山神を祀りて山神イサノと云ふ事ありて
これ十二本由來ありて日々イサノと云ふ事ありて

○三口イサノ三段イサノ池イサノ百二十四斛イサノのりありて

○石田坂イサノ好井イサノ世々イサノ事イサノ乙御イサノありて寺イサノありし
事イサノありて名イサノありて

○高泉寺昔同

○洞林山高泉寺々由利郡北野目村満勝寺二祖智圓禪師
高泉寺の鼻祖と云ふ萬曆三年庚子九月十九日遷化二世松岩和尙
元禄三年再興南基岩村深浦岩村雅樂岩村介岩村九世岩村當守岩村有住岩村也
○白山社 高泉岩村鎮守御神岩村矣岩村





甲 三段坡前堤
 其ノ黄緑色白濁也
 乙 祈宜館ノ古木
 神官住ノ
 丙 五木古林古戰場
 丁 薬師佛森

乙

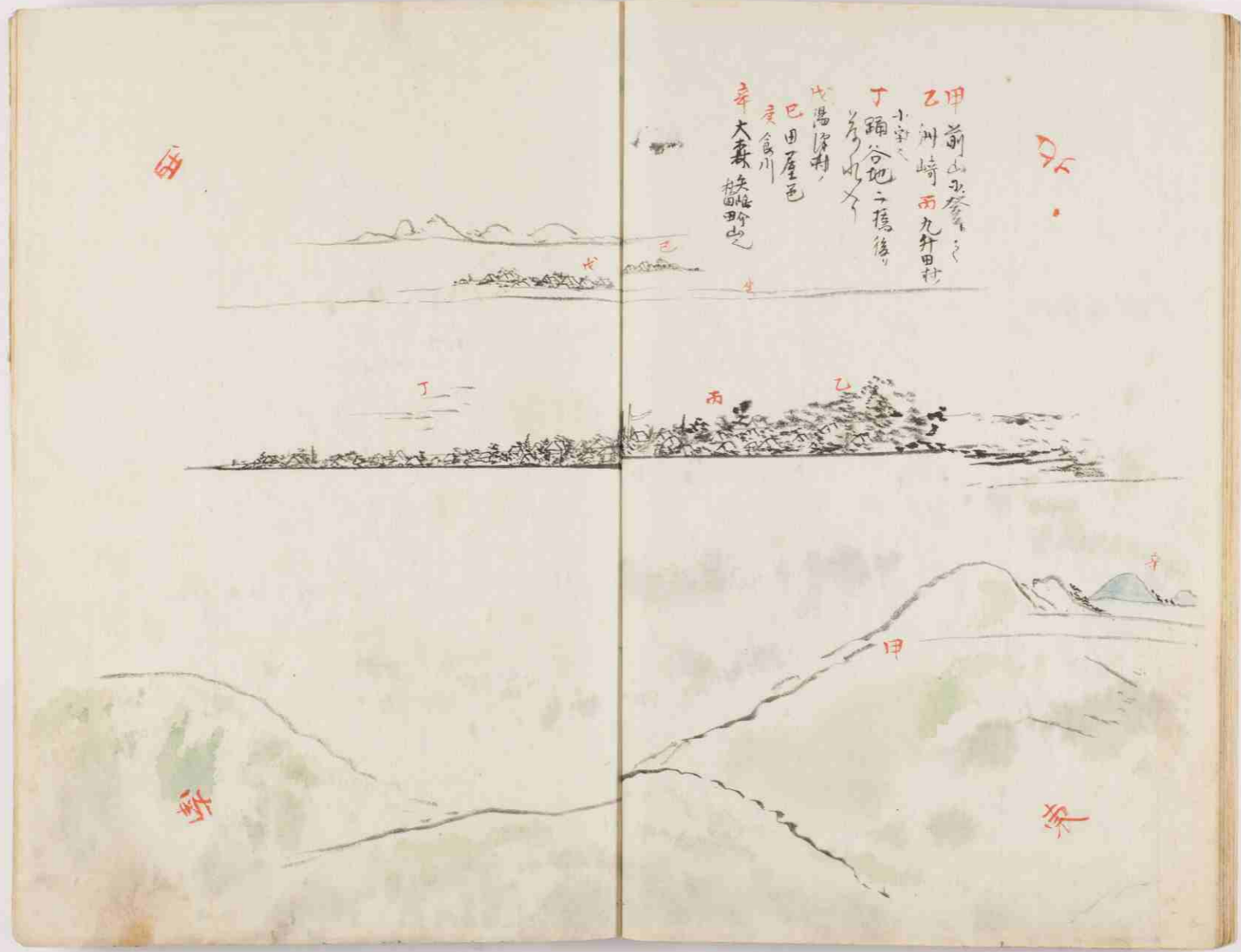
丙

乙

甲

丙

丁



武塔神社、祇園神社詳節云、祇園城國愛宕郡八坂郷祇神社
 三座、曰牛頭天王又名武塔、曰婆利女俗名、曰神是稻田姓也、或云婆竭羅龍王
 也、三言蛇毒氣神是、八岐蛇所化、武塔神者、素戔嗚尊之別號也、
 祇園二石感神院、貞觀十一年始、移祭所、と云、武塔神社、
 神宜楯いさかきと在、そ、天正の頃、阿倍左馬介某、よ、一人任、め、
 神官、を、い、か、て、今、地、ま、し、遷、居、ま、つ、り、て、阿、倍、氏、も、甚、道、を、家、居、て、年
經、家、を、く、り、武、塔、社、を、な、れ、り、今、地、社、地、と、云、高、泉、寺、と、地
を、不、後、ぬ、り、せ、れ、今、地、高、泉、寺、の、境、の、祇、園、社、を、其、の、高、泉、寺
跡、を、事、も、イ、村、より、々、東、南、の、方、に、在、り、神、宜、楯、と、井、の、跡、を、今、後、ぬ
 阿部左馬介の後胤と云々、如正統あり、今、地、の、事、と、云

高下はひ、

大英、色、

或説は松尾天神
形は白龍と云ふ
とも藤原神主
記に傳へり藤原
神主の名は藤原
藤原の神主と
中略の記に云ふ
敬と云ふ藤原
王の神主と云ふ
茶吉尼と云ふ
記に云ふ

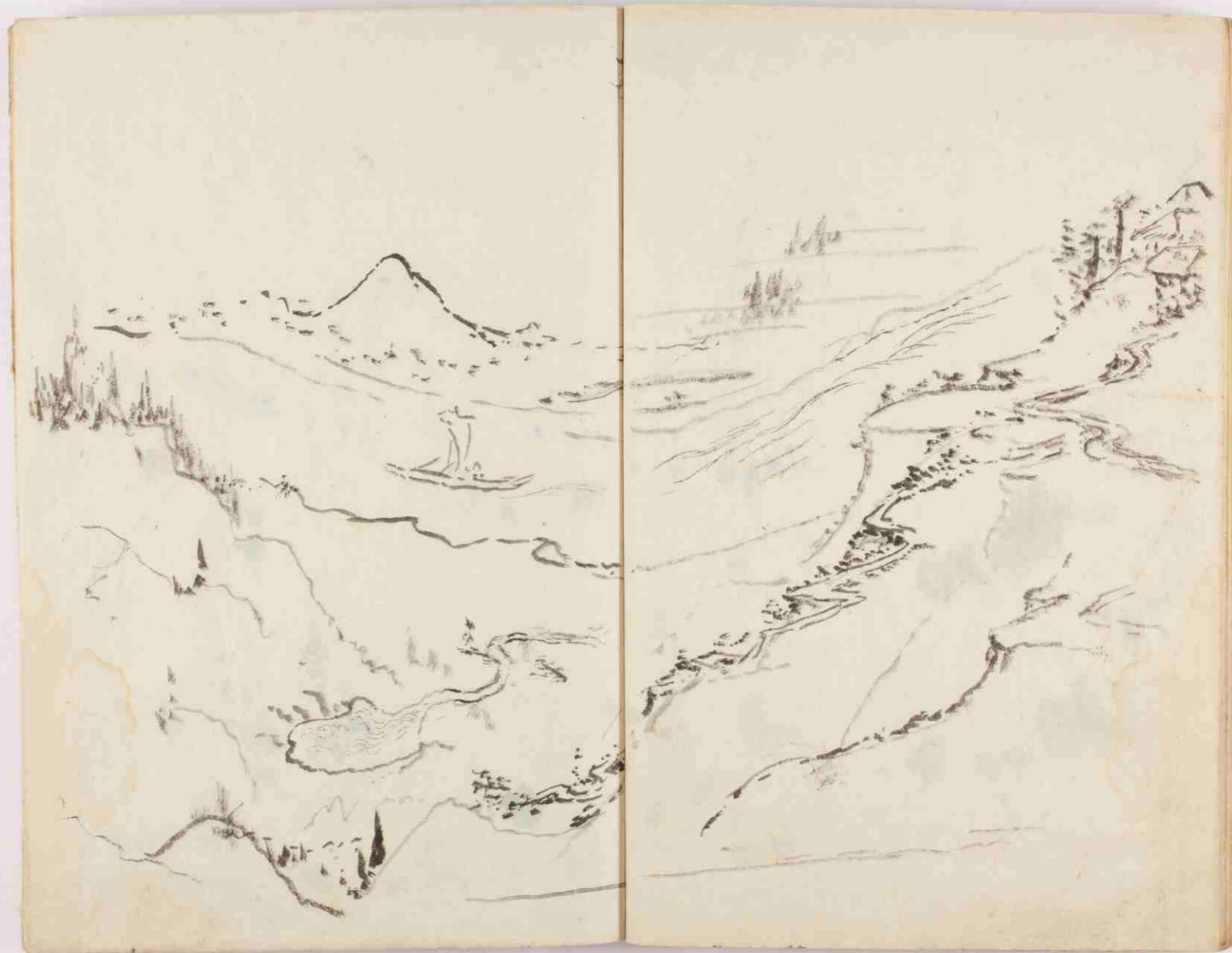
○大卷邑滋賀

○里正菅原善吾兵衛

○大卷邑と云ふ不揚名ありて和野縣より一里あり西北菟川
踰るに村あり九升田村十二町北あり此邑元禄十一祀年九升田村
加知里なり文化十二祀年本の一村となりて今も是なり

○水神薬師社 祭日四月八日 別當刈和野邑三明院

水神薬師二神一魂神之神神蛇といふ祀まつる神形を云ふ
彌都波能賣といふ名異形神のみなりて茶吉尼天女と云
漫茶羅書茶吉尼者如来應亦故取書心垢住大涅槃所以名茶
如天龍八部といふ御音集に記あり文徳實録に席田郡有妖巫甚靈
轉行敬心一種滋蔓民被毒害といふと茶吉尼の邪術歟といふ
茶吉尼の善惡二種ありて一人世より善余院といふ修験者の



藪平の水湖

○寺館邑 和野宮御
三村の白く

寺館邑

三良 陸立

里正 鈴木助左衛門

世寺館村を河向五箇村に並び有て、食川向の六ヶ村も云々云々
てしめ、峰吉川村よりさき、舟をりして北まへより、高城
邑、近藤、古名尻引邑、今頃、寺館尻引邑、二村一石掛、
三三屋、小村あり、寺館尻引邑、御鎮他鎮形を分て、今より起

神社

八幡宮 替 御鎮守神、祭日四月十五日 齋王 寺館 矢野 寺子右工所 正明院

神明宮 祭日並同 正明院

深山社 誕生釋迦如来石像 祭日四月八日 作重郎

正八幡宮 祭日四月十五日 古五郎

大山祇社 祭日四月十五日 三右卫門

○白山石 高城邑の西にあり白姫社あり半溪を隔てり白姫の
 山あり其より遠く信田村城趾（城跡）にあり（信田）は昔より此の
 石を以て名おわり白山石高城に尺半周回七八尺其石白く
 豊の穴あり中滑蛇々居せし小孔數あり此あり
 小穴水あり毒ありしと銀人山馬醉木を製するは此
 蛇まをともせしとありしとあり此石とて山神といふ
 多くて水きこもれい方の倉念もよくこの白瘴先之倉とほけ
 多くけしとありや中としの地のお言ひあり白山八土隣始神
 といふをわめきぬ病ありけりをれけりけりけりけりけりけり
 ○敷平湖 水南廣瀬東西十町餘南北纒千百二十間あり
 御領 龜田大嶋をこし三鎮の水田より水元の沼

○白永勝寺 曹洞宗

○清水山泉勝寺 古刹を、高寺の門徒ありしと伝へ近き世に強首の
 菊松山長養寺の末山よりありつて後長養寺の七世あり元朝
 公元朝頃南岳禪師と勧請せし建隆八年永代寺鎮三石と傳ふ代
 平僧が任職して世よりありしとあり寺より本尊迦地敷
 大士と名稱佛の任をとりしとあり古傳といふ

○正明院 修験宗

○鈴木山正明院を往か里正鈴木氏の家より建立の傳あり
 天和紀に創して上祖を 宥永 二世宥源 三世宥峯
 四世宥保 五世宥泉 六世當任正明院宥光

田地字

○ 河原田

○ 前中

○ 如子田

○ 總家負世三戸 ○ 日人負百九十五人 ○ 馬負世二足

破損あり

